

動きとイメージされる色に関する検討

小林輝子
稲川孝司

「目的」舞踊は創る、踊る、観るの三段階が連携して成立する。舞踊の作者は伝達したい事項を最も適切な運動で作り、受け手である鑑賞者に作者の意図の伝達および共感を期待する。この間のコミュニケーションは送り手側の作者の意図→作品内容→鑑賞者の反応であり、矢印の部分がうまく連絡できた時に共感を呼び再度その作者の作品を観にいくというフィードバック行動が起こる。ノン・バーバルコミュニケーションについて、心理学の研究では表情、視線、身体の特定の部位を用いて表されたサインを、受け手が言語化して意味を理解するととらえる。ノン・バーバルコミュニケーションとしての舞踊は、シンボルとしての動きでフィードバックを行う。この研究では作者の意図する創作を、研究者の意図で分断せずに鑑賞者に与え伝達された内容について考察したい。題材として知覚であり抽象的である色彩のうち色相をとりあげた。色彩の働きには、見かけの判断におよぼす影響や美的効果がある。見かけの判断におよぼす影響としては暖寒の印象、重さ、大きさ、距離感などがある。また美的効果は感情効果を生み、たとえば緑は若々しさととらえ、赤は喜びや怒りととらえられることがある。ここから色彩象徴が生じ、たとえば黄は勝利や狂気を象徴したり、青は希望あるいは失望を象徴するととらえられる。色相を題材として、作者の意図がどのように鑑賞者に伝わるのかを考察する。

「方法」被験者：舞踊を習ったり踊ったりしたことのない学生50名

刺激材料：3名の舞踊家にソロで6色のイメージについて、1色ずつ創作し踊ったものを8ミリビデオカメラに撮影した。作品数は18。時間は15秒から最大1分間の間であり、舞踊家の納得する時間とした。6色とは緑、黄、青、黒、赤、白であり統一するために、「色 その科学と文化」江森康文他、朝倉書店、1988年発行の中から「スペクトルの色」をみせてイメージを作るように要求した。無彩色については言葉で説明した。運動の条件は一続き(sequence)のものを3つ以内とし、運動のつなぎ方、発展のさせ方や空間の使い方などは舞踊家にまかせた。衣装は黒で背景は灰色の壁であり、踊る空間は横幅4m奥行き3mとした。創作のイメージは芸術的解釈でなく色そのものを表すこととした。舞踊家は3人とも30代で舞台経験が10年以上である。

手続き：舞踊家を含む舞台全体を撮影したフィルムを順序効果を相殺して被験者に提示した。一作品が終了するごとに色の判別および46対の形容詞を5段階で評定させた。形容詞対はオスグッドらの開発したSD法から作成された頭川氏の「舞踊のイメージ測定のための評定尺度構成」による。加えてフィルムの感想を書かせ、舞踊家にも形容詞対を5段階で評定してもらった。

「結果と考察」3人の舞踊家が6色について表現した作品から被験者が色を特定した。舞踊家ごと(No. 1, No. 2, No. 3)色ごとに一致度を調べるために検定を行った。No. 1では6色のすべてに人数の偏りが有意であった。特徴として赤を表現して回答が赤だったのは50人中25人で($\chi^2(5) = 55.1, P < .01$)よく伝わった色であった。黄色も人数の偏りが有意であった($\chi^2(5) = 52.44, P < .01$)が、黄ととらえる者よりも赤ととらえた者が多かった。又、黒も人数の偏りは有意で($\chi^2(5) = 44.5, P < .01$)であったが、黒を白とした者が24人いて無彩色では反転した。No. 2では3舞踊家のうち最も中率が高かった。赤を赤と回答した者は50人中40人で人数の偏りは有意で($\chi^2(5) = 147.63, P < .01$)、ついで黒の表現を黒と回答したのは39人で偏りが有意であったし、白を白とした者は23人で偏りが有意($\chi^2(5) = 40.4, P < .01$)であった。次に、色の正答率とは関係なくフィルムから感じるイメージについて、形容詞対で評定させた。尺度を評価した回答から平均値と標準偏差を算出した。46対について標準偏差の小さい項目から述べると、No. 1の赤では積極的-消極的、激しい-静か、強い-弱い、若い-老いたの順に被験者の回答が近かった。No. 1の黄の表現では、激しい-静か、強い-弱い、速い-遅いの順となり赤での応答と重なる部分がみられた。No. 2の赤では、激しい-静か、かわいい-にくい、派手な-地味な順で被験者の回答が一致しており、No. 1とは激しい-静かが共通した。No. 2の黒では、多い-少ない、新しい-古い、良い-悪いが一致度が高く、新しい-古いでは古いととらえている者が多かった。次に舞踊家の自己判断と被験者の判断とを平均値からみた。両者の差の絶対値をとり、この平均値と標準偏差を算出した。平均値が小さく標準偏差が小さければ、舞踊家と被験者の感じ方が似ていることになる。No. 1では赤が最も平均値($\bar{x} = .52$)が小さく標準偏差($SD = .348$)も小さく、黒はどちらも($\bar{x} = 1.15, SD = .901$)で6色中最も大きく舞踊家と被験者間で感じ方に違いがみられた。No. 2, 3の舞踊家でも色ごとで双方の感じ方に違いがみられた。